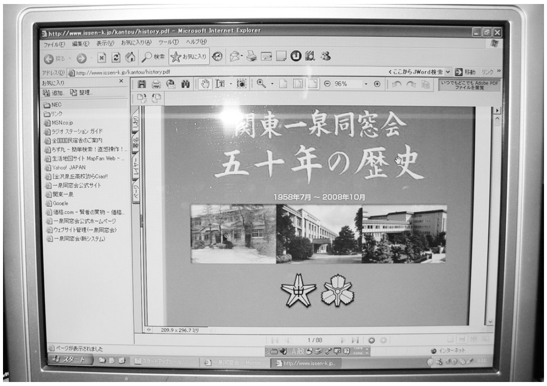
一泉

発行所
〒921-8116
金沢市泉野出町３丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内
一 泉 同 窓 会
電　話（076）242-0211
ＦＡＸ（076）216-5656
2009．３．31．発行
E-mail : issen_knz@hotmail.com

関東一泉同窓会の村上副会長
発足50年の歴史まとめる
発刊せず、本部 HP で紹介



関東一泉同窓会の村上与恵副会長（泉丘12期）がまとめた「関東一泉同窓会　五十年の歴史」が、平成20年11月から一泉同窓会本部のホームページに掲載された。Ａ４版、88ページからなるが、新たに判明した記録や今後の同窓会活動をそのつどプラスしていくため、刊行物とせず HP で開示することにした。

学校新聞号外で支部結成時期知る

表紙はスクールカラーの緑をベースに、一中54期の書家・氷田正男（草風）さんが書いた題字が白抜きされ、一中の本多町校舎と泉丘の旧校舎、現校舎の写真、一中、泉丘の校章が黄色であしらわれている。

内容は昭和33年（1958年）７月25日、東京・霞が関の日本海運クラブで開かれた一泉同窓会関東支部の結成大会から、平成19年（2007年）までの総会・懇親会の様子や写真、出席者名、その年の国内・海外の主な出来事などで綴られている。

村上さんが50年史に取り組んだきっかけは同18年９月、級友の小林弘子さん（泉丘12期、同窓会報「一泉」編集委員）から届いた学校新聞「いずみの原」。昭和33年８月20日発行の号外で、関東支部結成のニュースが掲載されていた。２年後に50周年を迎えることが分り、急きょ資料収集にあたった。

情報提供には関東一泉同窓会の会員だけでなく先の小林さん、同窓会本部事務局、ふるさと雑誌発行の加能人社、石川県東京事務所、金沢市立玉川図書館も協力した。

昭和35年、47年の総会資料が不明

しかし、昭和35年（1960年）と同47年（1972年）については総会の開催日時、会場、出席者など一切不明で空欄となっている。村上さんはこの２年間の情報を捜し求めており、他の年についても新たな情報があれば知らせて欲しいと望んでいる。連絡先は一泉同窓会本部まで。

なお一泉同窓会 HP の URL は「http : //www.issen-k.jp/」。HP を開いて左側の「関東一泉の歴史」をクリックすればよい。

厳霜碑前で物故者慰霊祭

平成20年度一泉同窓会物故者慰霊祭が創立記念日の10月15日午後、母校の厳霜碑前で厳かに行われた＝**写真**＝。

蚊谷八郎会長、川北篤元会長、山下一夫校長、総会幹事の南芳則泉丘27期代表、最長老の中川松雄さん（一中43期）、昨年夏に亡くなった山本道生一泉野球部OB会長（同54期）夫人の千佳さんら32人が出席した。

石浦神社の長谷勝俊宮司の祝詞奏上のあと参列者全員が玉ぐしを捧げ、日露戦争以来の殉難者や亡き師、亡き友などすべての一泉関係者の霊を慰めた。

115周年総会に最高の850人

役員改選　蚊谷会長ら全員３期目へ

金沢一中創立115周年、新生泉丘創立60周年記念の平成20年度一泉同窓会総会・懇親会は10月15日、金沢駅前に新しくオープンしたホテル金沢で開かれた。出席者は約850人で、県内で一番広い同ホテル２階のダイヤモンドルームも超満員。役員改選では蚊谷八郎会長（泉丘14期）ら12人の全役員が再選された。３期目となるこれからの２年間に、５年後の創立120周年に向けての人事や記念事業の足固めを行うことになった。

総会に先立ち母校生の部活動発表が行われ、合唱部が「江戸の子守歌」など４曲を披露した。続く総会では蚊谷会長が過去最高の参加者を集めた主幹事期の泉丘27期に感謝を述べると共に、「この勢いで母校をバックアップし、一泉同窓生の絆をさらに強めていこう」とあいさつした。中山一郎事務局長（同10期）の前年度決算、今年度予算の特徴説明の後、山下一夫校長（同19期）が母校の現況を報告、「後輩たちは一中魂を受け継ぎ、文武両道に励んでいるが、合宿施設を兼ねた同窓会館が望まれている。120周年の記念事業として実現できないものか」と訴えた。

懇親会の司会は27期の立田哲義君と小島晶子さんに代わり、同窓生ゆかりの加賀５銘酒の鏡割り＝**写真下**＝と川北篤元会長（一中55期）の乾杯の音頭で酒宴が始まった。懐かしい友人、先輩、後輩との歓談の合間に、27期の松本友信君がリーダーのジャズバンド・ミリオンカントリーボーイズの生演奏と同期女性陣のダンスが披露され、会場は割れんばかりの拍手に包まれた。

全員が肩を組み合っての一中・泉丘校歌合唱では盛り上がりが最高潮に達した。27期の南芳則実行委員長から28期の上田幸世次期実行委員長に幹事引継ぎが行われ、最後に泉屋利郎副会長（同14期）の万歳三唱＝**写真上**＝で名残を惜しんでの閉会となった。

地区同窓会だより

50周年を祝い328人が出席
関東一泉も最高のにぎわい

関東一泉同窓会総会・懇親会は10月25日、東京・九段北のアルカディア市ヶ谷で開かれた。今年は関東一泉同窓会の発足50周年にあたり、幹事期の泉丘29期が力を入れて参加者を募り、近年最高の328人が出席して盛り上がった。金沢からは蚊谷八郎本部会長（泉丘14期）、水谷昭同副会長（同７期）、泉屋利郎同（同14期）、中山一郎同事務局長（同10期）、山下一夫校長（同19期）の５人が出席した。

総会では役員改選が行われ、浅井敏郎会長（一中50期）ら８人の全役員が重任された。あいさつにたった浅井会長は、村上与恵副会長（泉丘12期）の努力で立派な50年史が出来上がったことを紹介、蚊谷本部会長と山下校長が50周年を祝ってあいさつした。

懇親会は泉屋本部副会長の乾杯の音頭で始まり、舞台ではにぎやかなオープニングダンスが披露された。会場はたちまち金沢弁と笑顔にあふれ、歓談の合間には同窓生協力による５銘酒の利き酒選手権、女性プロ演奏者によるピアノとフルートのコラボレーション、泉丘50期のプロシンガー・松田亜世ミニライブ、母校の様子も含めた金沢検定クイズなどで予定の時間があっという間に過ぎた。

一中・泉丘の両校歌を大合唱＝**写真**＝、30期への幹事引継ぎ、糸多宗人副会長（一中54期）の閉会の辞に続き西村実29期代表幹事が「関東一円の同窓生という縁で結ばれた皆さんに、青春と故郷を懐かしんでもらおうと頑張りました」と閉会宣言し、感謝の声と拍手のうちに幕を閉じた。

ふるさとの味集め抽選会
和気あいあいの関西一泉総会

関西一泉同窓会の第28回（平成20年度）総会が６月７日午後、JR 大阪駅ビル20階のホテルグランヴィア大阪・鳳凰の間で90人が出席して開かれた＝**写真下**＝。金沢からは一泉同窓会本部の蚊谷八郎会長（泉丘14期）、普神貴行副会長（同２期）、中山一郎事務局長（同10期）、山下一夫泉丘高校校長（同19期）、恩師の石田武美先生（同12期）が参加、村上明石川県大阪事務所所長もお祝いに駆けつけた。

初めに片瀬貴文関西一泉同窓会会長（一中55期）、続いて蚊谷本部会長が、また山下校長も「一中創立115周年、泉丘となって60周年の記念すべき年に母校の校長に就任でき感謝にたえない」とあいさつした。

懇親会は細川燾さん（一中46期）の乾杯の音頭で始まった。泉丘27期の小泉正司さんと44期の池田香織さんが司会を務め、ふるさとの味を集めたラッキープレゼント抽選などもあり、和気あいあいのうちに２時間余が過ぎた。一中・泉丘の両校歌を大合唱、辻本初枝関西一泉同窓会副会長（同４期）の中締めで名残を惜しんでの閉会となった。帰りには今年も片瀬会長が取り寄せた松任の「圓八あんころ」が全員にプレゼントされた。

二次会は松尾幸恵さん（通信12期）経営の北新地の「珠洲」で行われ、約40人が集まってもう一度盛り上がった。

人生の思い出積み重ね
松任一泉、60人が集う

平成20年度の松任一泉同窓会総会・懇親会が11月23日、白山市西新町のグランドホテル松任で60人が出席して開かれた。

松田栄司さん（泉丘27期）の司会で物故者に黙祷を捧げ、福住孝会長（一中57期）が「人生は思い出の積み重ねである。今日の集いをよき思い出の一つに加えて欲しい」とあいさつ、山下一夫校長（泉丘19期）が母校の近況を報告した。続いて同市在住の日本舞踊家・藤間信乃輔さんが「清元　玉兎」を披露、和の心に浸った。

懇親会は青木桂生副会長（同13期）の開宴の辞と水谷昭一泉同窓会副会長（同７期）の乾杯の音頭で始まった。いつものようににぎやかな歓談の中、恒例のビンゴゲームでさらに盛り上がった。最後に一中・泉丘の両校歌を合唱＝**写真**＝、中山幸昌副会長（同９期）が「来年もこの場に集おう」と締めて散会となった。　（松本雅治＝泉丘42期・記）

第２回光が丘一泉会開く

平成19年の９月９日に発足した光が丘一泉会（９・９会）の第二回の集いが、今年も９月９日に金沢国際ホテルで17人が参加して開かれた＝**写真**＝。

山岸春生さん（一中50期）の乾杯の音頭の後、一人ひとりの近況報告などで会は和やかに進んだ。私・窪田米松（泉丘５期）は光が丘の隣町の高尾台４丁目に住んでいるが、無理を言って今年から仲間に入れてもらった。これが機となり、来年から周辺地区の同窓生も誘うことになった。気楽な同窓生の集いなのでどなたでも参加して欲しいと思う。

そんなこんなで２時間余がアッという間に過ぎ、一中・泉丘の校歌を声高く歌って散会となった。　（窪田米松・記）

中川さんが講演　トピックス

八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会世話人代表・事務局長の中川外司さん（泉丘８期）は、平成21年１月23日、野々市明倫高校で開かれた金沢地区高校長会研究協議会で「八田技師が教えること」と題して講演した。

八田與一技師（一中11期・金沢市出身）は、台湾に１億５千万㌧を貯水する烏山頭ダムを建設した。日本人も台湾人も同じとした八田技師が、今も「嘉南圳の父」と敬愛されていることを生徒たちに教えて欲しいと中川さんは訴えた。

美しき旨し酒。
天狗舞
株式会社　車多酒造
代表取締役　車多　壽郎（泉丘11期）
白山市坊丸町60―１
TEL076-275-1165

株式会社　山越
http://www.kai-p.co.jp/
代表取締役社長　山越　昭雄（泉丘11期）
■コンテンツ事業部
〒920-0001 金沢市千木町ル70-1 TEL(076)257-9111(代) FAX(076)257-9119
■メディア事業部・総務部
〒920-8665 金沢市兼六元町3-78 TEL(076)222-1144(代) FAX(076)262-5577

三馬一泉同志会に13人

三馬一泉同志会の第20期総会が７月９日、金沢市野町４丁目の割烹「むとう」で13人が出席して開かれた＝**写真**＝。

初めに角信平会長（泉丘５期）が「今年は残念ながら出席者が少なかったが、一中・泉丘の母校愛で結ばれた三馬地区の会であり、いつまでも続けて行きたい」とあいさつ、北島敏男幹事（同８期）の司会で前年度決算、今年度予算案などを審議した。

続く懇親会は、最年長の平松昌司さん（一中49期）の乾杯の音頭で始まった。すぐに座をめぐっての歓談となり、一中から泉丘25期までと幅広く、それぞれの在学時代の思い出や地域の話題に花が咲き、にぎやかなうちに２時間半が過ぎた。最後に大西俊治副会長（泉丘７期）が「来年も元気に集まろう」と中締めして散会となった。

出席者は次の皆さん。平松昌司（一中49期）、西川　保（泉丘４期）、角　信平（同５期）、大西俊治（同７期）、北島敏男（同８期）、田中一郎（同）、中島雄平（同９期）、長田　久（同）、中山一郎（同10期）、石田武美（同12期）、北　実（同）、中野邦男（同13期）、小柳　誠（同25期）　（北島敏男・記）

一中・泉丘　各期の集い①

◆一中46期が62回目で最後の同窓会

一中46期の平成20年度同窓会が６月22日、湯涌温泉「かなや」で米寿記念を兼ねて開かれた＝**写真**＝。出席した15人の話し合いで、終戦直後から毎年開催してきた同窓会も、よる年波に勝てず継続困難と判断、今回の62回目をもって最後とすることになった。

一行はまず尾山神社に参集し、共に米寿を迎える祝いのお祓いを受けた。16人が揃う予定だったが八王子在住の尾本康次郎君が急病で欠席、寺内良雄君も湯涌に来られなくなったが、代わって梅林清君が来てくれてどうやら15人となった。神社からは本多町の旧校舎跡地に残るモミの樹と、その説明板を観てから湯涌へ向かった。

宴会には瀬川夫人の芙二子さんと夫人の民舞仲間二人が加わり、が然にぎやかになった。いつものように松任・金谷酒造会長の金谷与平君が持参した銘酒を酌み交わして談論風発、婦人方の踊りも十分に楽しんだ。

出席者は次の皆さん。梅林　清、片岡茂太郎、加藤　敬、金谷与平、瀬川　成、鍋谷太市、阪東芳雄、深田元夫、藤井欣一、細川　燕、松本忠男、松本豊次、宮村利雄、宮本敏之、村上淳男　（松本忠男・記）

株式会社ケンゼン

代表取締役　**山瀬　紀正**（泉丘11期）
常務取締役　**岡田　昇三**（泉丘11期）

〒920−8008　金沢玉鉾１丁目144
TEL（076）291-6220　FAX（076）291-6850

お茶の
いづみ屋

代表取締役社長　**泉　匡隆**（泉丘12期）

本社
〒920-0841　金沢市浅野本町２-15-33
TEL076-252-1313（代）FAX076-251-5568

ゴルフを楽しみ
お酒を愛する愉快な仲間

遊　泉　会

泉丘12期有志

◆一中50期が和倉で同窓会

金沢一中50期生の同窓会が６月６日、和倉温泉「美湾荘」で開かれた。昨年の白山市・白峰の同窓会より３人少ない13人の集まりだったが、それだけに出席者たちは和倉まで来れた喜びをかみ締め合った。

金沢駅西口に集合、まず迎えのバスで和倉温泉までの旅を楽しんだ。旅館に着くと早速一風呂浴びてくつろぎ、一別以来の話に花を咲かせた。

宴会に先駆けて大応援旗の前に並んで記念撮影＝**写真**＝、続いて西坂弥三郎代表から各種報告があり、青地龍男さんの乾杯の音頭で酒宴に入った。年々少なくなっていく級友や出席者のこの１年を話し合い、盃を交わした。後期高齢者もなんのそのビールも酒も追加とますます盛んな雰囲気の中で、大森三郎さんのハーモニカ演奏でさらに盛り上がり、校歌・応援歌、演歌あり、音楽室で山本協一先生に習ったクラシックありと続いた。いつものように部活の話、大会での優勝の話に沸き、万歳三唱で締めくくった。

翌日はバスで金沢駅に向かったが皆すがすがしかった。駅頭では13人が輪になって再会を約束、それぞれの家路についた。

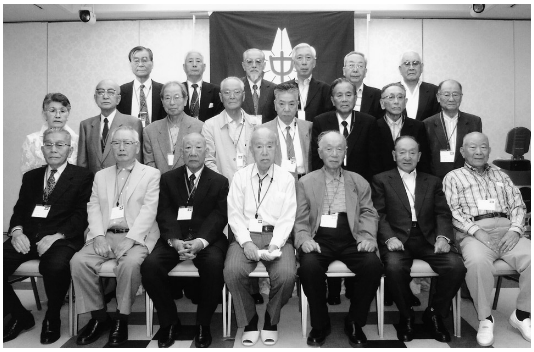
出席者は次の皆さん。青地龍男、浅井敏郎、大岩利麿、大滝善次、大森三郎、太田重雄、小森成男、中村成寿、西坂弥三郎、新田史郎、宗守弘雄、山形周一郎、吉岡外美雄

（太田重雄・記）

◆一中51期・一桜会が恒例の同窓会

一桜会（昭和19年卒・一中51期）の平成20年度同窓会が５月21日、金沢市の「KKRホテル金沢」一泊で開かれた。県内から14人、県外から７人の21人が出席、楽しい一夜を過ごした＝**写真**＝。

県内組では村上誠一、福田義昭の両君が久しぶりに顔を見せ、県外組は横浜市の朴木春夫君、豊中市の宮野良雄君、名古屋市の越村吉郎君らが馳せ参じてくれた。記念撮影の後、室谷與三松君の司会でまず物故者に黙祷を捧げ、酒宴に入った。和気あいあい、談論風発のうちに懇親会は進行、小畑四郎君の「近江町市場再開発」の話や大森三郎君（愛知県日進市）のハーモニカ独奏で大いに盛り上がり、



例年にない充実した会となった。

エピローグは越村君の音頭で校歌などを歌い、１年後の再会を約束して宮野君の一本締めで閉会した。今回も故宮林和彦君の夫人・富美子に出席してもらい、多くのスナップ写真を撮影していただいた。（園部　哲三・記）

未来の環境を創造する
KONGO GROUP
金剛建設株式会社
株式会社金剛
代表取締役社長　金岡　久夫（泉丘12期）
グループ本社　金沢市大野町４丁目レ40番地172番地
TEL076－239－4959　FAX076－238－9255
TEL076－239－4153　FAX076－239－1440

金剛グループ
●土木工事業　金剛建設（株）
●AUBE Ⅰ・Ⅱ/オーロラビル　（株）金剛 不動産事業部
●土壌改良資材の製造販売　金剛建設（株）ニチミネ事業部
●食品リサイクル業　（株）金剛 食品リサイクル事業部
●農産物の栽培　金剛建設（株）アグリ事業部
●産業廃棄物処理　（株）TR金剛
●一般廃棄物処理　（株）金剛
●サウナオーロラ運営　（株）ゆめ工房

◆八泉 AB 会が恒例の同窓会

八泉 AB 会（泉丘８期商業科 A･B ホーム）は恒例の同窓会を11月24日、山代温泉の「ゆのくに天祥」一泊で開いた。

今年は全員70歳超えの記念の年だったが男９人、女10人の19人参加で、例年より５、６人少なかった。しかし、宴会では手品や仮装歌謡ショーなどのかくし芸が飛び出して抱腹絶倒、いつもに増しての盛り上がりで話も尽きない一夜となった。

翌日は近くの「魯山人寓居跡」を見学、大聖寺川沿いの「うるし藏」で昼食後、またの再会を誓って散会した。　（茶屋勝也・記）

◆関東八泉会が３年連続で同窓会

関東八泉会（関東在住の泉丘８期）は11月28日、東京・南青山の日本原子力機構の施設「シャトー青山」で同窓会を開いた。３年前からの連続開催で28人（男24人、女４人）が出席した＝**写真**＝。

事務局の荒木二夫君が司会を務め、物故者に黙祷を捧げた後、宮丸凱史会長と金沢から駆けつけた福田太睦八泉会代表幹事があいさつした。懇親パーティーではいつものように高校時代の思い出や近況報告で旧交を温め、猪ノ坂知栄子さんの「５分間気功教室」で日頃のストレスを解消した。最後に岡田紘美副会長が閉会を告げ、記念写真を撮って散会した。　（茶屋勝也・記）

◆泉丘９期関東地区同期会開く

泉丘９期の関東地区同期会が５月17日、東京・六本木のライブハウス「ホオキパ」で古希到来記念を兼ねて開かれた。担当幹事は天日雄三郎君で32人が出席した。

会場の「ホオキパ」はハワイ語で、金沢弁に訳すと「ようこそおいであそばせ」の意味。今回のメーンイベントは、天日君がリーダーのハワイアンバンド「カウラナアイランダース」が生演奏して、杉森醇子さんがフラを舞うという趣向。青春のメロディがたっぷり演奏され、「金沢望郷歌」や校歌を全員で熱唱して楽しいひと時を過ごした。

杉原弘泰君を祝福する女性陣

また12月７日の午後、新橋の「新橋亭」で開いた忘年会には35人が出席した。担当幹事は森井博君。秋の叙勲で杉原弘泰君が瑞宝重光章を受章したので、お祝いを兼ねての開催となり、めでたい会となって一層盛り上がった。紹興酒の美酒を傾けながら、ヒマラヤの麓をトレッキングしてきた人やボランテア介護をしている人たちの話に耳を傾けた。森井幹事の肝煎りによる森八銘菓が抽選で当たり、お土産に月餅が全員に配られた。

（西島幸夫・記）

クスリのアオキ
代表取締役会長　青木　桂生（泉丘13期）
内部監査室長　岡田　忠彦（泉丘14期）
執行役員経営企画室長　八幡　亮一（泉丘37期）
執行役員調剤事業本部長　青木　宏憲（泉丘43期）
執行役員ＩＴ・業務改革本部長　青木　孝憲（泉丘44期）

本社／石川県白山市松本町2512番地
TEL　076－274－1111（代）
http：//www.kusuri-aoki.co.jp

◆泉丘10期が卒業50周年同窓会

泉丘10期・泉寿会の高校卒業50周年記念同窓会は８月25日、山代温泉の「ゆのくに天祥」で開かれた。朝から白山カントリーでのゴルフ大会、午後の母校見学会、記念講演会と多彩な催しで思い出深い一日となった。

村田紀代司君の司会で始まった総会では、66人の亡き級友に黙祷を捧げ、中山修会長が関東、関西などの遠来勢に対する歓迎と100人を超える大同窓会となったことに対するお礼を述べた。続く記念講演会は同期の谷口肇石川県立大学食品科学科教授が「糖を巡る話題」と題して話した。

記念写真を撮り＝**写真**＝、入浴タイムの後は会場を大広間に変えての懇親会。ここから恩師の松田春海、清水隆久、浜名久雄先生も顔を見せられた。司会は森田敦志君と加藤美智代さん。神戸章君の詩吟「祝賀の詞」に東野昭子さんの詩舞がついて幕が開いた。恩師代表の松田先生のあいさつに続いて宮本チハヤ関西泉寿会会長が乾杯の音頭を取り、酒宴が始まった。歓談の合間に笠井利久君の水墨画の早書き、安原由紀子さんのフラダンス、大谷孝弘君のビンゴゲームなどがあり、最後に校歌を高らかに歌い関東泉寿会の金子兵衛君が中締めを行った。その後もナイトラウンジを借り切っての二次会、部屋へ帰ってからも話がつきず夜の更けるまでにぎわった。

ゴルフは今川庄造君が優勝、約40人参加の母校見学会では山下一夫校長の歓迎を受け、啓泉講堂では練習中のブラスバンド部が校歌を演奏してくれて感激の大合唱となった。翌日は「ゆのくにの森」観光もあり、遠来組はふるさとの伝統産業を堪能した。

また、泉寿会はこれを機に思い出の記や今日の生き方と会員名簿を合わせた「卒業50周年記念誌」（B５版、48ページ）を発刊、430人の全会員に配布した。　（中山一郎・記）

◆関西泉寿会が懇親会

関西泉寿会（泉丘10期）の昼食会を兼ねた懇親会が11月15日、大阪・梅田の中国料理店「グランド白楽天」で開かれた。今回は13人の出席だったが、左近真樹子さんと馬場聡君が久しぶりに顔を見せた。２時間の会食では時間が足りず、近くの喫茶店へ移ってまた話に花が咲いた。　（会長　宮本チハヤ・記）

◆関東泉寿会（泉丘10期）が恒例の新年会

関東泉寿会（大西忠会長）の平成21年新年会が１月25日、東京・新宿の日本出版クラブ会館で33人（金沢２人、関西１人）が出席して開かれた。例年のように歌や踊り、ゲームなどで懇親を深めた。　（金子兵衛・記）

◆泉寿会の次期会長に林茂君を選ぶ

泉寿会（泉丘10期）の総会・新年会が２月21日、金沢エクセルホテル東急で51人が出席して開かれた。総会では21、22年度会長に林茂君を選出した。続く懇親会では皆で叙情歌や校歌を歌って楽しんだ。（中山一郎・記）

内科　循環器科　呼吸器科
池田内科クリニック
院長　**池　田　清　司**（泉丘13期）
金沢市高尾台１丁目112（高尾台中学校向い）
TEL　076－298－9999

－あなたの元気応援します－
(有)能村薬局
能村　明文（泉丘13期）
能村　厚子（泉丘19期）
能村　涼子（泉丘45期）
〒920－0915　金沢市西町薮の内通27
TEL076-221-2189　FAX076-263-2588

◆泉丘11期が一足早く卒業50周年同窓会

泉丘11期の半年早い高校卒業50周年記念同窓会が10月10日、湯涌温泉の秀峰閣で開かれた＝**写真下**＝。北は仙台市、南は兵庫県南あわじ市から男40人、女22人の計62人が出席して全館借り切りとなった。

初めに亡き級友に黙祷を捧げ、母校の発展と会員の健康を記念して乾杯、深夜まで歓談が続いて友情を深め合った。途中、幹事から母校や一泉同窓会の近況報告もあった。

（村本敬一・記）

◆泉丘13期有志でボランティア倶楽部

泉丘13期の有志45人で作った「36会ボランティア倶楽部」（米田勇一世話人）が、平成20年の５月から活動を始めた。

定年後の日々の生活を充実させるため、行政などが実施する公共施設や海岸・河川のクリーン活動、栽培活動、里山運動などに年５～６回参加して地球環境の保全・温暖化防止に少しでも役立つことを願い、昨春（平成19年）から同期生に参加を呼びかけていた。

「作業の後に、このように爽やかな気分がやってくるとは思いもしなかった」と参加者の一人が感想を述べているように５月25日の金沢市専光寺、６月22日の白山市徳光、７月13日の内灘海岸＝**写真**＝のクリーン活動に参加、仲間もだんだん増えて45人になった。そのため参加者が集まりやすいよう泉丘高校の校章入り「のぼり旗」を作った。

同会は活動拡大のため13期だけでなく広く一泉同窓生の参加を呼びかけている。希望者は米田（電話076－274－5546）まで連絡を。

（米田勇一・記）

トピックス　毎朝流れる校歌

○…♪見はるかす加賀野の果てに…。昨年６月から毎朝８時15分になると、母校の校舎内に校歌が流れる。従来の授業開始前予鈴に代わるもので、発案者は４月に着任した山下一夫校長。

○…チャイムで授業に入る心構えをするより、校歌にこめられた作詩・作曲者のメッセージを感じて臨む方が効果的。卒業生たちも１、２番は元気よく歌っているが３、４番になると歌詞がうろ覚えのせいか、声が小さくなりがち。と山下校長は指摘する。

○…３年間、校歌を聞き続けた後輩たちが、３番の♪若人ら静けき念ひ　世のためにきたえ練りなむや、４番の♪文化の花を　色綾に咲かせゆかなむを実践してくれることを期待したい。

新時代の総合ビル管理システム
株式会社　クマ
浅岡　茂雄（泉丘14期）
本社
〒921－8101　金沢市法島町１－10
TEL　076－241－3110（代）
FAX　076－245－2540

学校法人
金沢工業大学
理事長　泉屋　利郎（泉丘14期）

カタニ産業株式会社
代表取締役社長　蚊谷　八郎
（一泉同窓会会長　泉丘14期）
本社　〒920－0902
石川県金沢市尾張町２丁目16の80
TEL（076）263-6111　FAX（076）222-3433

「最くるしみ死にたる折口春洋」
父信夫、悲痛な思い墓石に刻む

折口春洋とその父信夫

　気多大社の真向かい、羽咋市一ノ宮の小さな丘の斜面に国文学者・民俗学者・歌人（釈迢空）で国学院大学教授の折口信夫（しのぶ）博士と養子春洋（はるみ）の墓がある。日本海を眺めるように建つ墓石に刻まれた鎮魂歌。「もっとも苦しきたたかひに 最くるしみ 死にたる　むかしの陸軍中尉折口春洋　ならびにその父信夫の墓」…。一ノ宮生まれで金沢一中32期（大正14年卒）の藤井春洋が折口家の養嗣子となり、先の大戦で硫黄島で戦死するまでを追ってみた。

二人の出会いの縁は折口門下生

　春洋は明治44年、羽咋郡一ノ宮村で医薬業を営む藤井升義の四男として生まれた。藤井家は気多大社の社家として続いていた。折口博士もまた大阪府下で医薬業を営む家に生まれ、祖父は飛鳥坐（あすかにます）神社の神主家から折口家へ養子に入った人だった。

　不思議な縁のある二人の出会いは春洋が金沢一中から国学院大学予科、同大学へと進み、折口門下生となったことから。春洋は大学を卒業すると折口宅に入り、師の身の回りの世話をしながら国学院大学で教鞭を執った。二人の間柄は父子・師弟の関係を超えていたと言われ、春洋の兵役期間を入れると16年余に及んだ。そんな二人を詩人・室生犀星は『我が愛する詩人の伝記』の中で「藤井春洋は…、迢空のいふままに仕事をし、二人は兄弟のやうに仲善く、或る時はわかい23の妻と、42歳の男とが暮らしてゐたのである。藤井春洋は眼は大きくいきいきとしてゐて、頬はいくらかあお白く色の変らない、がつしりした体格を持ってゐた。講演、講義、町の食事、歌舞伎、調査旅行の何処にも藤井は連れ立った」と記している。

日本軍守備隊を火炎放射器であぶり出す米軍

折口春洋（旧姓・藤井）

折口信夫

＝いずれも羽咋市一ノ宮地内の案内板から

　徴兵検査に甲種合格した春洋は昭和６年、初応召された。同18年には金沢の歩兵連隊に再応召、機関銃中隊の馬匹掛（重機関銃は馬で運搬）と補充兵教育を兼務した。

独立機関銃大隊の小隊長で渡島

　運命の硫黄島への出陣は翌19年のこと。その年、小笠原兵団の急きょ編成に当たり、金沢管区の師団は重機関銃経験者の推挙を要請され、出征した者のほとんどが「独立機関銃第二大隊」所属となった。藤井春洋は少尉に任官されその大隊の第二中隊第４小隊長に任ぜられた。７月10日に横浜港を出港、14日に硫黄島に上陸した。288人の大隊構成員のうち石川県人は164人。生還者は看護兵１人だけだった。

　米海兵隊9000人が硫黄島に上陸完了したのは、昭和20年２月19日午前10時半。銃砲撃で懸命に応戦する日本軍のトーチカや洞窟陣地は、死角のないように配置され、さらに地下10㍍のトンネルで結ばれていたので兵員・武器の移動は可能だった。当初、人的被害は米軍の方が多かった。しかし、武器の劣る日本兵は次第に力尽きていった。３月17日、栗林

「生きて帰還」の願いもむなしく 養子に迎えた春洋、硫黄島で玉砕

藤井家の墓の中にある折口信夫・春洋の墓石

中将団長は最後の切込みを決意し、大本営にその旨の無電を打ち通信を断った。

慰霊団員が春洋の考科表を発見

藤井少尉はどうだったのだろうか。川﨑時雄大尉率いる独立機関銃第二大隊の第二中隊の第１、第４（小隊長は藤井少尉）小隊は本隊と分かれ、擂鉢山の守備についていた。栗林団長は「挑発に乗って過早に射撃せず、配備を秘匿せよ」との指示を出していたが、２月17日から19日朝にかけ擂鉢山と南地区高台の海軍の砲台が火を噴き、日本側の応射位置の一部を教えることになり、米艦隊の艦砲射撃と空爆で二箇所が完全につぶされた。また川﨑大尉も３月６日に決別電を発して米軍に切り込み、全員が玉砕した。藤井春洋少尉戦死の公的発表は昭和20年３月17日とされているが、前述の事実から見て２月17日から３月６日の間でなかろうかとも言われる。享年38歳。戦死後の申請で中尉となった。

戦後の昭和27年１月、硫黄島戦死者追悼のため旧海軍の有志一行が島を訪れた。同行した新聞記者が撮った写真に「藤井春洋」と言う文字の読める「考科表副本」が写っていた。島中央部の洞窟内（屏風山？）にあったが硫化ガスで傷んでおり持ち出せなかったと言う。「藤井春洋　志操堅固、身体極めて健康にしていかなる困苦にも耐ふ」との考科が記されていた。

折口春洋とその父信夫

金沢一中卒の４人も硫黄島に散る

藤井少尉のほか金沢一中卒業生の戦死者に次の方々がいる（全員独立機関銃第二大隊所属で戦死日は一様に３月17日）。◇前田信吉少佐（20期、金沢医専卒、軍医、最後は第二中隊長）◇岡島以司郎兵長（35期、高岡高商卒、東京日々新聞）◇穴田康雄大尉（旧姓木嵜、39期、早稲田大学）◇西野辰三伍長（41期、金沢街路鉄道）

また藤井少尉の部下で一中44期の矢部健治（医師）は、病気で敵上陸前に本土へ復帰していて命拾いをした。

折口博士と春洋父子に話を戻してみよう。春洋の出征後は博士の心に穴があいたようになり、連隊のある金沢に何度も足を運んで面会した。昭和19年４月、博士は能登を訪ね、春洋の兄で藤井家当主の巽から春洋を養子に迎える承諾を得た。同年７月、硫黄島守備に着いていた春洋に手紙で意志を確認して養嗣子に迎えた。保証人には折口博士が民俗学の師と仰ぐ柳田国男が名を連ねた。

「きさらぎの　はつかの空の月ふかし　まだ生きて子は　たたかふらむか」（迢空）。父折口博士の願いもむなしく春洋戦死の公報が届いたのは、終戦を過ぎた11月だった。博士は次々に帰還する兵士を見て、未練が出た。「たとへ手も足もなく、目が見えずとも、還ってさへくれれば」と、本心をさらけた手紙を藤井巽に送っている。

昭和24年７月、折口博士は一ノ宮の丘に墓を建てた。墓石に刻んだ鎮魂歌は、未だ心に残る未練を断ち切ろうとする博士の悲痛な叫びでもある。同28年９月３日、折口信夫博士は66歳で亡くなった。最期を看取ったのは強い絆で結ばれた門下生たちだった。しかし、誰よりもそこに居てほしかったのは最愛の弟子・春洋でなかったろうか。

＜参考図書＞　岩波現代文庫「釈迢空ノート」、広報はくい「折口春洋とその父信夫」、河出書房「ああ硫黄島」、武市銀治郎「硫黄島」

一中・泉丘　各期の集い②

◆泉丘14期、河口湖畔や主計町に集う

泉丘14期関東支部の総会が10月26日、山梨県河口湖畔の富士桜荘で開かれた。支部結成10年の節目の総会で金沢組も含め32人（うち女性７人）が出席した。

懇親会は自己紹介から始まったが大半が顔なじみとあって、すぐに昔話で盛り上がった。最後にいろいろな景品が当たるくじ引きを行い、笑いのうちに中締めとなった。翌日は、ドライブを兼ねて忍野八海や鳴沢を回るミニ観光でお開きとなった。　（蓮川洋一・記）

また、地元一四会（泉丘14期）恒例の忘年会が12月12日、主計町の鍋割烹「みふく」で開かれた。いつもの14日が日曜日のため12日に変えたためか例年より少ない30人の出席だった。それでも初参加者もありカキ鍋に舌鼓をうち、近況を語り合った。二次会もお決まりの片町コースで楽しんだ。（穴戸　範・記）

◆泉丘16期が２年ぶりに同窓会

泉丘16期同窓会が11月22日、金沢ニューグランドホテルで開かれた。還暦同窓会以来２年ぶりの開催で、恩師の浜名久雄、普神貴行、山崎裕の３先生を含め74人の出席で大いに盛り上がった＝**写真**＝。

まず物故者に黙祷を捧げたが、この２年間に８人が亡くなり鬼籍に入った同期生は29人になった。続いて広瀬靖久代表幹事があいさつ、浜名、普神両先生から祝辞をいただき、山崎先生の発声で乾杯をして酒宴が始まった。遠方からの人に加え初めて顔を見せた人もあり、テーブルを超えて積もる話に花が咲き、時の経つのも忘れるほどの賑わいとなった。最後に応援歌と校歌を大合唱、山本武生君の発声で中締めとなった。この後全員が同ホテル12階のレストラン・コアに移っての二次会で、もう一度盛り上がった。（広瀬靖久・記）

◆泉丘19期が還暦同窓会

泉丘19期恒例の同窓会が８月14日、金沢市笠舞２丁目の加賀料理「八百辰」で開かれた＝**写真**＝。今年は級友の山下一夫君の母校校長就任祝いと還暦パーティーを兼ねての開催で、恩師の安高徹、楠禎一郎先生を交え50人が出席して楽しいひと時を過ごした。

安宅雅夫会長の開催の辞に続いて山下校長が「一年間と短い期間だが、母校発展のために精一杯努力したい」とあいさつして乾杯の音頭を取り、酒宴に入った。ちょうどリタイヤの年齢で首都圏からのＵターン組10人も初参加、いつにも増しての盛り上がりとなった。最後に校歌を歌って散会となったが、ほとんどが二次会へ流れてさらに盛り上がった。また、会合前に母校見学会が行われ、25人が山下校長の案内で校内を回り、旧校舎の位置などを懐かしんだ。　（安宅雅夫・記）

修学旅行からチャーター便の旅行
日本ツアーシステム
（ツアーシステム株式会社）
代表取締役社長　堂井　重昭（泉丘14期）
〒921－8011　金沢市入江２－88
TEL　076－292－0055
www.toursystem.co.jp
金沢本社・イオンかほく店
ジャスコ小松店・ジャスコ加賀店
七尾ベイモール店・富山北の森店

桐漆工芸　上坂
上坂審一（泉丘15期）
〒920－0932　金沢市小将町５－10
TEL　076－264－1511
FAX　076－231－2478

土と水の総合コンサルタント
株式会社　ホクコク地水
代表取締役　尾蔵　博（泉丘15期）
本社　〒921-8021　金沢市御影町25-1
TEL 076-241-7158(代)　FAX 076-243-2422
URL http://www.hokukoku.co.jp
営業所　名古屋・福井・富山・七尾・穴水

◆泉丘19期の在京同期会開く

平成20年度の泉丘19期在京同期会が11月28日、東京・四谷の老舗「鮨三ます」で21人が出席して開かれた＝**写真**＝。卒業以来初めて顔を見せた人もあり一段と話に花が咲いたが、定年直前の年齢のためからか定年後の第二の人生の話が中心となった。

再就職者もあれば不況でやむなくブラブラや、そのまま老後という者、この際ふるさと金沢に帰ろうかなとの話も出て、例年より参加者が少ない分だけ話が通りやすく、随分と盛り上がった。

二次会にも10数人が参加、故郷を懐かしみながら約５時間もしゃべりまくった一夜だった。（山崎　喬・記）

◆関東泉丘23期が芸能観賞や暑気払い

関東泉丘23期は、平成14年に関東一泉同窓会の幹事を仰せ付かったのを機に結束を固め、飲み会だけでなくゴルフ会などいろいろな企画を立てて集まっている。

平成20年の３月20日には東京・半蔵門の国立演芸場で落語や曲芸など日本の芸能を楽しむ会を開いた。前年に大病と闘って健康を回復した級友を祝う会で10人が参加、心の底から大笑いして免疫力を高めた。

８月27日には神保町の「もちぶた屋」で暑気払いを兼ね、夏の会合を持った。８人が出席して焼酎や泡盛に舌鼓を打った。さらに10月25日の関東一泉同窓会の日には７人が、再び国立演芸場に集合して落語を楽しみ、その後市ヶ谷の同窓会に出た。（宇野明美・記）

◆泉丘28期が同窓会で結束固める

泉丘28期の同窓会が４月28日、金沢国際ホテルで67人が出席して開かれた。３年ぶりの開催であまり間が開いていないが、今年の一泉同窓会総会・懇親会の副幹事期、来年の同会の主幹事期ということで、同期会員の結束を図るのが狙い＝**写真**＝。

冒頭、高田直人会長が今秋と来秋の総会運営の協力をお願いし、来秋の一泉同窓会116周年総会・懇親会の実行委員長に上田幸世さんを選出した。

28期の全体同窓会は平成12年、17年に次いで３回目。今回は恩師の安高徹、石田武美両

先生にも出席いただいた。50歳になって初めて顔を見せた人もあり、高校時代のことや仕事のこと、家庭のことなど話が尽きず、酒宴は大いに盛り上がった。片町へ出ての二次会にも50人が出席、10月15日の一泉同窓会での再会を約束してのお開きとなった。

また、当日は白山カントリーで同期のゴルフコンペも行われ、12人が春風の中で楽しい汗を流した。（堀部泰生・記）

株式会社 中村ポンプ
代表取締役 中村　進（泉丘15期）
専務取締役 中村研太郎（泉丘41期）
本社 〒920-0378 金沢市いなほ１-５
TEL 076-240-1122(代) FAX 076-240-1134

電気工事設計施工請負
成瀬電気工事 株式会社
代表取締役会長 成瀬　巌（泉丘15期）
代表取締役社長 成瀬亮太郎（泉丘39期）
常務取締役 成瀬栄三郎（泉丘45期）
〒920-0061 金沢市問屋町２-17
TEL 076-237-4181(代) FAX 076-237-4848

岡本小児科医院
院長 岡本　力（泉丘16期）
〒291-8011 金沢市入江１丁目616-１
TEL 076−291−9511(代)

◆泉丘29期関東地区同期会開く

泉丘29期の関東地区同期会が７月18日、東京・九段北の「アルカディア市ヶ谷」で開かれ、28人が出席した＝**写真**＝。29期は今秋、関東一泉同窓会の50周年記念総会・懇親会の幹事役を仰せつかっており、会場下見と同期生の結束を兼ねての開催だった。

西村実代表幹事と矢来慶治副代表幹事があいさつ、これまでの準備会の様子が報告された。久しぶりに顔を合わせるメンバーも加わったせいか、月例の幹事会とは異なった和やかなムードの中、高校時代や郷里の話題を懐かしむうちに予定の２時間があっという間に過ぎた。10月25日午後６時からこの会場で開催する関東一泉同窓会により多くの同窓生の参加を呼びかけ、50周年記念総会を成功に導くことを誓い合って散会した。

（梅田　毅・記）

◆泉丘38期が卒業23年目に初の同窓会

泉丘38期の北陸地区在住者同窓会が11月29日、金沢市片町の居酒屋で開かれた。参加者は28人と少なかったが、高校卒業以来23年目での初めての集まりで同窓会の楽しさを満喫した＝**写真**＝。

昨年、関東地区在住者45人が東京・新宿で同窓会を開催して楽しいひと時を過ごした様子が伝わり、「金沢でもぜひ開いて欲しい」との声が大きくなり、数人が世話役となってメールで参加を呼びかけた。

当日は23年ぶりとあって、次々に会場に現れる同級生同士の顔と名前が一致せず「あんた誰や」と確認の連続。特に女性陣が美しく変身しており、感嘆の声が上がるほど。名前が分るにつれて打ち解けて、気持ちは高校時代に戻った。昔話に花が咲き、クラスや部活動のこと、さらには憧れの人についての告白など時間はアッと言う間に過ぎた。

二次会は級友・山内康子さん経営の創作フランス料理店「パルティール」。ここでも話がはずんで、ついに日付を超えての三次会。男性陣は「久しぶりに美味い酒を飲んだ」とご機嫌。高校時代には話す機会がなかった同級生とも新たなつながりが生まれ、本当に絆を深めた同窓会となった。深夜の片町で「２年後には卒業25周年の大同窓会を開こう」と約束しての散会となった。

数日後に羽田秀史君が同窓会の写真をメールで送ってくれ、楽しい思い出が甦った。また１月２日には金沢に帰省した正元敏之君、岡田憲和君を迎えてのプチ同窓会が開かれた。23年間も沈黙していた38期が大きく前進しだした。

（久慈晴子・記）

美術デザイン系大学受験予備校
カナビ
金美アトリエ
〒920-0935金沢市石引1-3-33　☎076-262-4011
代表　広瀬 靖久（泉丘 16 期）

内装　家具
㈱ 誠和インテリア山本
代表　山本　武生（泉丘16期）
〒920－0965 金沢市笠舞２－２－12
TEL 076-222-8881　FAX 076-222-3611

農業用ビニール・ポリエチレン製品製造卸
園芸・包装資材・各種シート類製造卸
若林化成株式会社
代表取締役　若林　健（泉丘16期）
本社・工場
〒921-8833　石川郡野々市町藤平115
TEL 076-248-0653(代) FAX 076-248-2879

◆泉丘42期も初の同窓会

泉丘42期の初めての同窓会が８月16日、金沢スカイホテルで開かれた。旧盆帰省を利用しての参加者が多く、恩師の６先生を加え総勢134人の盛大な同窓会となった。

まず、全員で記念写真を撮った後＝**写真**＝、世話人代表の梅谷基樹があいさつ、恩師の梅田和彦、室木直彦、加藤茂芳、紺矢亮一、押田邦夫、中村章子先生を代表して室木先生が祝辞を述べた。続いてオーストラリアから駆けつけたトリシア・ルーベンスタインさんが乾杯の音頭を取り、酒宴が始まった。トリシアさんは18年前に一緒に学んだ留学生で、男子生徒の憧れの的。日本語と英語を交えたあいさつと「カンパイ」の発声で、会場は一挙に盛り上がった。

久振りに顔を合わす仲間や恩師を囲んでの歓談で、予定の時間もすぐに終わった感じ。全員で校歌を歌い、粟森世里奈さんの中締めで４年後の再会を約束して閉会した。

（梅谷基樹・記）

文化・運動部 OB 会だより

36回目の櫻美会美術展開く

金沢一中・泉丘高校の卒業生で美術を愛好する人たちが催している「一泉櫻美会美術展」が、４月30日から５月６日まで金沢市のラブロ片町７階・アートシアターいしかわで開かれた＝**写真**＝。36回目となる今回は会員80人のうち55人が62点を出品、在校生美術部員10人のアクリル画も展示された。

最年長の村田尚一さん（一中39期、93歳）の油彩「本多の森櫻章校跡地の桜」と粟野利雄さん（同40期）のパステル「花」は同会の双璧。藤井肇代表幹事（泉丘４期）の油絵「クワジマーラⅠ・Ⅱ」は、白山市桑島から出土した草食トカゲが題材。水墨画の山川孝さん（一中49期）と写真の冨沢拓さん（泉丘18期）は親子出品で話題を集めていた。

＊＊

トピックス　豪雨災害復旧に協力

母校・泉丘高校のサッカー部員14人と陸上部員13人の計27人は８月１日午後、浅野川豪雨災害に対するボランティア活動を行って災害復旧に協力した。

７月28日朝の集中豪雨で浅野川が氾濫、金沢市内の浅野川大橋周辺の民家に大量の土砂が流れ込んだ。１日午前の補修授業を終えた部員たちは、菱田浩章教頭（泉丘25期）と松本彰教諭（同23期）の引率で昌永町、浅野本町の民家に分散、泥出し作業に汗を流した。

奉仕作業に対し10月14日、東良勝浅野町校下連合町会長から学校に感謝状が届いた。

整体療術　健　友　館
館長　越田　昭（泉丘17期）
〒921－8154　金沢市高尾南３－114
TEL　076－298－8140
FAX　076－298－9853

加賀の菊酒
萬歳楽
株式会社　小堀酒造店
代表取締役　小堀　幸穂
（一泉同窓会副会長　泉丘17期）

救急労災指定
高田整形外科内科医院
院長　高田宗世（泉丘17期）
〒920-0902　金沢市尾張町２-16-83
TEL　076－221－1598

秋には32回目の小品展

32回目の一泉櫻美会小品展が10月７日から12日まで、金沢市並木町の浅の川画廊で開かれ、多くの同窓生らでにぎわった。

会場には大先輩・村田尚一さん（一中39期）の油絵、大樋勘兵衛さん（同52期）の大樋焼の力作をはじめ書、写真、刻字など個性あふれる41点が展示された。同会は９月20、21日に勝山市小原地区へスケッチ旅行を行っており、そのときの作品も多く並べられた。中でも正田洋子さん（泉丘13期）の水彩画「旅は宝物」は幅25センチ、長さ２メートル余の巻物風に山村の風景が描かれており、訪れた人たちはくるくる廻しながら鑑賞していた。

向川会長、土産携えて出席

関東泉泳会が12回目の集い

関東泉泳会の集まりが５月24日、東京・中央区の「うすけぼー京橋店」で開かれた。金沢から駆けつけた向川勇泉泳会会長（一高）ら会員10人のほか二水高校水泳部OB２人、中央大学水泳部OB２人の特別参加もあり、にぎやかな集まりとなった＝**写真**＝。

昨年７月に開催して「来年も集まろう」と決めていたもので、通算12回目の水泳部OB会。向川会長は北陸の味「ます寿し」など沢山の土産を携えて出席、母校や一泉同窓会の活動ぶりを報告、金沢での本格的プール建設や会員が中心になって練習している古武道日本泳法会のこと、創部80周年記念事業などについて熱っぽく説明した。

向川会長以外の参加会員は次の皆さん。

岡田理子（泉丘３期）荒山倭子（同４期）篠木俊明（同５期）水牧祥介（同６期）白尾三樹（７期・幹事）市川成一（同９期）中村慶子（同）吉村豊（17期）入栄隆純（18期）

（白尾三樹・記）

送球部OB･OG会が交流試合

泉丘高校送球部（ハンドボール）のOB･OG会が今年も８月14日、母校体育館で男女36人が集まって行われた。同会は試合で汗を流すのを楽しみに続けられており、午前９時から午後４時過ぎまでOB･OG同士や現役生との交流試合でいい汗を流した。

山下校長の歓迎兼ね

陸上部OB会が総会・懇親会

泉丘陸上部OB会の20年度総会・懇親会が８月17日、金沢駅前のホテル金沢で開かれた。今年は山下一夫会員（19期）の母校校長就任歓迎を兼ねての開催で、いつもの倍の50人が出席した。木本利夫会長（16期）と山下校長のあいさつの後、議事に入り、役員改選では木本会長ら19人の全役員の留任を決めた。

懇親会では恒例のリレースピーチが行われ、現役時代の思い出や近況報告でにぎわった。最後に母校の活躍を期して散会した。

（岡島清＝30期・記）

産科・婦人科・内科
丘村クリニック
院長　丘村　誠（泉丘18期）
〒920－3124　金沢市荒屋１－87
TEL 076-258-6116 FAX 076-258-6211

北山クリニック
整形外科(スポーツ医学)･形成外科･皮膚科
院長　北山　吉明（泉丘18期）
〒920-0852　金沢市此花町３-２
ライブ１ビル２F
TEL 076-263-2400　FAX 076-263-2366

医療法人社団
新　村　病　院
白山市月橋町722-12　☎(076)273-0100
社会福祉法人　鶴来会
特別養護老人ホーム
あじさいの郷
白山市明島町春130　☎(076)273-0123
理事長　新村　康二（泉丘18期）

野球部 OB 会長に野々市さん

一泉野球部 OB 会の平成20年度総会・懇親会が８月30日、金沢エクセルホテル東急で約40人が出席して開かれ、新会長に野々市孝さん（泉丘10期）＝**写真**＝を決めた。

総会では昨年行った創部100周年記念事業と決算を承認、昨19年８月に亡くなった山本道生前会長の後任について協議した。

続く懇親会は「山本前会長をしのぶ会」として開催され、前会長夫人の千佳さん、山下一夫校長（同19期）、北橋義仁監督も来賓として出席した。まず亡き前会長に黙祷を捧げ、野々市新会長が改めて「一中・泉丘の伝統ある野球部を守り育てるために一層のバックアップを続けて甲子園出場を実現させよう」とあいさつ、千佳夫人に感謝の記念品を贈った。続いて山下校長が総会のお祝いを述べ、宮地副会長の発声で会場に飾られた山本前会長の遺影に献杯して酒宴に入った。前会長の思い出話や苦しかった練習の話などいつものように盛り上がった。（泉丘25期　池田光一・記）

新会長に砺田和史さん

バレーボール部同窓会も総会

一泉バレーボール部同窓会の総会・懇親会が11月16日、金沢市のニューグランドホテルで開かれた。５年ぶりの開催で関東、関西などからの６人を含む63人が出席した。

総会では役員改選が行われ、宮太郎会長（一中51期）に代わって砺田和史さん（泉丘９期）を新会長に選出した。また規約の一部改正を行い、会員の居住地別に北信越、東日本、西日本、中部の４ブロックを発足させ、ブロック別同窓会を開催して会員の絆を深め、活動の活発化を図ることにした。

懇親会の初めに砺田新会長が「一中、泉丘の繋ぎ役として会を盛り上げて行きたい」とあいさつ、物故者に黙祷を捧げた。来賓の山下一夫泉丘高校長（同19期）が乾杯の音頭を取り、酒宴に入った。参加者の最長老は一中50期の西坂弥三郎さんで、最も若いのは泉丘58期の松本瑛子さん。60歳以上の年齢差はあっても青春をバレーボールにかけた思いは同じ。現役時代の自慢話に花が咲き、笑顔があふれた。一中・泉丘の校歌合唱、13年間母校の監督を務めた田村昌俊さん（泉丘６期）の音頭で万歳を三唱して閉会した。

なお､これに先立って母校体育館で33人（プレーのみ12人）が参加して久しぶりのプレーを楽しみ、良い汗をかいた。

＜新役員は次の皆さん＞　▼名誉会長　宮太郎（一中51期）▼顧問　北村栄勝（同48期）▼相談役　西坂弥三郎（同50期）▼会長　砺田和史（泉丘９期）▼副会長　長谷川外司（一中56期）若林茂樹（泉丘10期）三澤俊子（同４期）宮崎博子（同８期）▼事務局長　山本武生（同16期）▼会計　五十嵐吉成（同20期）▼監事　上田昭（同13期）本江他佳志（同19期）　（山本武生・記）

ISO9001：2000認証取得
千代野建設株式会社
代表取締役会長　福田　裕（泉丘18期）
〒924−0865　白山市倉光６−25
TEL 076-274-2121　FAX 076-274-2244
URL : http : //www.chiyono.co.jp/
E-mail : fukuda@chiyono.co.jp

SEA FOODS
ATAKA
金沢市中央卸売市場
株式会社 安宅
代表取締役社長　安宅雅夫（泉丘19期）
〒920−0024　金沢市西念４−20−３
TEL 076-233-2266　FAX 076-263-3408

SPACE CREATE KATO
株式会社 カトー
イベントディスプレー
店舗、住宅のリフォーム
代表取締役　加藤英資（泉丘19期）
本社　〒920-0062　金沢市割出町606-１
TEL（076）237-5458　FAX（076）237-8233

後輩に防具贈り合同稽古
一泉剣友会が60周年記念式

一泉剣友会は10月11日、母校大会議室で平成20年度の総会と泉丘創立60周年を祝う記念事業を行った。約40人が出席、総会では舩木一璋会長（泉丘14期）ら全役員を再任、同56期の藤田涼香さんを幹事に追加選任した。

続く60周年記念式典は物故者への黙祷に始まり、記念品として現役部員に試合用防具の胴を男女各７枚贈呈した。これに対し男子主将の瀧川智之君と女子主将の下川育実さんがお礼の言葉を述べた。さらに前校長の鈴森庸雄さん（同18期・県立生涯学習センター館長）が「高校生剣士への期待」と題して記念講演、現役選手への熱い思いが伝えられた。また、高川義一前会長（一中53期）書の「事上磨練」をスクールカラーに染め抜いた記念手ぬぐいが披露され、出席者に配布された。

会場を剣道場に移した稽古会に先立ち、居合道教士八段の中村正人氏（泉丘23期）による居合道・無双直伝英信流演武が披露された。その後の引き締まった空気の中、現役生との稽古会では舩木会長ら６人の大先輩に対して11人の男女部員が気合もろとも懸かって行き、１時間にわたる地稽古に汗を流した＝**写真**＝。

夜の懇親会は金沢スカイホテルで行われ、和やかな雰囲気の中で25人の参加者は大いに親交を深め、各期の武勇伝や今後の剣道部への思いに花を咲かせた。

（泉丘30期　本保義浩・記）

グラウンド横の十貫川改修

母校・泉丘高校のグラウンド東側から南側へ流れる準用河川「十貫川」の改修工事が平成20年12月中旬から始まった。法面（のりめん）の玉石が一部崩れ落ち、川の流れをわるくしているので玉石を積みなおすもの。

初年度はグラウンド南側（円光寺側）の53㍍。グラウンド側の玉石を一度取り除き、鉄筋入りのコンクリート壁（深さ2.46㍍、厚さ15㌢）を造って法面を補強し、その前に元の玉石を積み上げる＝**写真**＝。景観に配慮して、法面にある大きな木はそのまま残されており、約２㍍の川幅も変わっていないので外から眺めた校庭の景色も従来のまま。工事は３月10日に終わったが、この時期は大学受験を控えた３年生の勉強の追い込み期間。そのため工事中の騒音にも最大限の注意を払って行われ、勉強への影響はなかった。

21年度は南側の続きが行われ、東側の第二体育館裏までの全長326㍍の完成は22年度末となりそうだ。

皮膚科・泌尿器科
中　嶋　医　院
中 嶋 和 喜（泉丘19期）
〒921－8111　金沢市若草町２番35号
TEL（076）241－7717・241－2528

40～る。川テレビ
取締役 **根布　寛**（泉丘19期）

加世多皮膚科医院
院長 **加世多 秀範**（泉丘20期）
〒920-1187 金沢市もりの里３丁目７
TEL(076)234-0050
FAX(076)234-0150

投稿二題

一中校章三つの思い出

一中50期　太田　重雄

＜その一＞

　昭和13年春、私は憧れの金沢一中に合格、泉の原にその威容を誇る新校舎初の新入生として入学した。入学式の日、家の玄関にかける表札を頂いた喜びは今でも忘れられない。そんなに大きくないのだが、頭に一中の校章が焼印され、その下に生徒の名前が書かれていた。表札は卒業までの５年間、玄関にかけることが許された。この表札のかかる家に一中生が居ることは一目瞭然で、私も我が家の玄関にかかる校章入り表札を、誇らしげに眺めていた。

＜その二＞

　昭和12年７月に始まった日支事変が拡大して同16年12月に米国、英国を相手とする大東亜戦争になった。それまで一中生の通学用履物は革靴に巻脚絆だったが、軍人用の革靴が不足する非常事態となり、革靴での登校は軍事教練のある日に限られた。革靴を長持ちさせるためで、普段は厚歯の下駄履きでの登校となった。許可された下駄の表には両方共に校章の焼印が押された。何足も揃って脱いであると校章がずらりと並び、それはまた見事なものだった。

＜その三＞

　大東亜戦争が激しくなるにつれ、食糧事情がひっ迫した。代用食が日常茶飯事化し、学校でも週に１回、家からの弁当の代わりに昼食にうどんが出るようになった。各人のどんぶり鉢が用意され、第二体操場が食堂として利用された。このどんぶり鉢は一中の校章と個人番号入りで焼かれたもので、体操場脇の廊下に置かれた戸棚に並べてあった。卒業の日に自宅へ持ち帰ったが、どうしたのか我が家には残っていない。今あれば懐かしい品なのに…。

投稿二題

泉丘の校歌レコードに

泉丘４期　張田　俊一

　私には泉丘高校の校歌にまつわる二つの思い出がある。

　一つは３年生だった昭和26年10月15日の創立記念日に、校歌が制定されたことである。作詩は大沢衛金沢大学教授（一中29期）、作曲は音楽の安藤芳亮先生。藤山一郎の歌謡曲が好きで、高校２年からNHKの「のど自慢」に連続で出ていた私は、２年次の担任だった安藤先生が作られた校歌が気に入ってよく歌っていた。そのため音楽部から入部を誘われたりしたものである。

　そんな私が昭和28年だったと思うが、校歌をレコードに吹き込むことになったのである。泉丘を卒業して２年目で歌のレッスンにも通っており、「のど自慢」でも常に上位に入賞していた。秋のある日、安藤先生が弥生１丁目の自宅に尋ねてこられ、同級生の上田敬子さん（現井田さん、千葉県柏市在住）と二人で校歌を歌ってほしいと頼まれた。

　当時、北國新聞社の中にあった北陸放送の第一スタジオで吹き込んだ。テノールの私は１番、高校時代音楽部でソプラノの上田さんは３番、２番と４番は二人で歌った。ピアノ伴奏はプロの今井迪さん。半年ほど経った翌29年（創立60周年記念か）、ドーナツ盤として日本グラモフォンからレコード化された。5000枚ほどプレスして在校生に配布、卒業生の希望者にも販売されたと聞いている。

　このレコードは私の大切な宝物であり、時々聞いては往時のことを懐かしんでいる。歌は今でも好きでカラオケを楽しんでいるが、75歳ともなると声に張りが無くなった。自分で言うのも変だが、レコードから流れる20歳の歌声は最高に艶があり誇りに思う。

通信制だより

卒業生や現役生らが交流会
通信制が60周年記念学園祭

泉丘通信制の第26回学園祭が11月２日に母校で行われ、旧職員と卒業生、現役生の三者が昼食を兼ねて交流した＝**写真**＝。

今年の学園祭は創立60周年記念事業の一環として企画されたもので、正午から生徒ホールで開かれた交流会には多くの現役生をはじめ旧職員12人、卒業生60人が参加した。テーブルには通信制振興会の援助で準備されたお寿司やオードブルが並べられ、中村研一教頭のあいさつの後、宇野奈緒子生徒会会長が司会、食談形式で旧職員、卒業生、現役生の代表４人ずつが高校時代の思い出や悩みなどを発表して、苦労に負けず「卒業」の大切さを確認するなど交流を深めた。

会場には焼きソバや綿菓子、コーヒーなどを販売する模擬店も出店されてにぎわった。また、教室では作品展やゲームコーナーも設けられ、楽しい歓声があがっていた。

これに先立ち、午前９時から啓泉講堂で創立60周年記念式が行われ、山下一夫校長（泉丘19期）、苗代明彦振興会会長（通信16期）があいさつ、続いて名木栄一郎さん（同32期）が「童話の世界と体験談（枯れ木に花を）」と題して講演、「辛抱して頑張れば必ず報われる」と諭した。

通信制の「近十年記録集」を制作

泉丘通信制の「創立60周年記念　近十年記録集」が制作され＝**写真**＝、通信制教育振興のための賛助会費納入者400人に配布された。Ａ４版、34ページで、平成11年度からの各種事業写真、山下一夫校長と苗代明彦通信制教育振興会会長のあいさつ、旧職員や卒業生の寄稿、通信制の現状などが記されている。

石川県内の高校生は減少しているが、県内唯一の公立通信制高校である泉丘通信制は、平成16年度を境にわずかずつながら生徒が増加している。中村研一教頭はその理由として通信制過程の重み、生涯学習に果たす役割、セーフティーネットとしての期待値が増しているからだろうと言う。事実３月、５月、９月の新入・転入試験時期になると、県内全域から入学に関する問い合わせが相次ぎ、通信制の門をたたく生徒が多い。

その結果、平成20年度の卒業生は145人で前年より10人多かったが、過去最高の16年度の146人に１人及ばなかった。

歯科・小児歯科・矯正歯科
加藤歯科医院
院長　加藤　成俊（泉丘20期）
金沢市森山２丁目23番17号
☎(076)252−４１８２（ヨイハニ）

タオル及び総合ギフト
PINNACLE® Pilex®
株式会社 白や
代表取締役社長　小鍛治史郎（泉丘20期）
■本　社　金沢市片町２−10−35
TEL 076-263-8331(代)
FAX 076-223-1783
東京・金沢・富山・大阪

中村小児科医院
院長　中村　英夫（泉丘20期）
野々市町押野6-179　☎(076)294-3338
http://homepage1.nifty.com/nakamurapc/

おめでとう「一泉賞」
20年度は７人に贈呈

平成20年度の「一泉賞」受賞者は７人。３月３日の全日制卒業式の席上５人に、また同８日の通信制卒業式で２人に蚊谷八郎一泉同窓会会長から賞状とトロフィー、副賞の図書カード１万円分が贈呈された。

同賞は創立100周年を記念した一泉基金事業の一つとして、平成６年度に設けられた。在学３年間を通じ、学業と課外活動を両立させた生徒に贈られるもので、規定の変更があったもののこの15年間で245人に贈呈した。

今年度の受賞者は次の皆さん。

◆廣瀬　開君　新聞部の部長としてリーダーシップを発揮、部員をまとめると共に優れた編集力で高いレベルの新聞作りに務めた。その結果、第37回全国高校新聞コンクールで初の優秀賞を受賞した。これは応募総数128紙中６位に相当する。受賞後、教育長表敬訪問などが一般紙に掲載され、泉丘の知名度を高めた。

◆菅野　洋君　２年次に英国政府が始めた国際気象チャンピオンに選ばれ、日本代表として「ロンドン国際気象チャンピオン会議」に参加。英国環境大臣を訪問、提案を行った。また３年次では「こども環境サミット in 神戸」にホスト国の国際気象チャンピオンとして参加し、G８環境大臣会合への提言を行った。

◆田中晋太朗君　３年次に全国高校化学グランプリ2007に出場、応募者2105人の中から一次選考を通過、二次選考80人中から14人の金賞に輝いた。また物理チャレンジ2008にも出場、650人中100人に絞られた第二チャレンジに進み、銀賞（13人）を獲得した。テニス部に所属、県総体でも好成績をあげた。

◆利長明日海さん　２年次に第10回俳句甲子園全国大会に出場、中心メンバーとして参加36チーム中、団体ベスト６に入賞した。また３年次では平成20年度全国高校文芸コンクールの俳句部門で全国４位に相当する優秀賞を受賞した。校内では放送部員として活躍するなど、文化部活動に全力を尽くした。

◆池田佳奈子さん　２年次に第２回全国高校生英語ディベート大会の石川県大会で優勝、全国大会に進んで参加64チーム・274人の中から優秀賞（最優秀賞１人、優秀賞５人）に選ばれた。３年間 ESS 部に所属し、部活動に励んだ。また、とてもまじめな性格であり、日々の学習にも地道に取り組んだ。

◆岡本真奈さん　学業成績は極めて優秀で小説やエッセイにも挑戦している。生徒会誌「いずみ」の編集委員長を務め、自ら小説や行事感想文を発表した。また２年次後期から生徒会役員となり、今年度の通信制創立60周年記念学園祭では実務の中心者として生徒会メンバーをまとめ、学園祭を成功に導いた。

◆宇野奈緒子さん　しっかりした将来設計の持ち主である。18年４月に泉丘通信制課程衛生看護科に入学、15年ぶりの勉学と小学生二児の母親として家事・育児の両立に努力した。２年次には県立総合看護専門学校を卒業、３年次には病院の正規看護師の職にもついた。生徒会長も務め、学校行事をうまくまとめた。

にぎやかに一泉行列

泉丘高校の創立60周年記念祭の幕開けを告げる恒例の「一泉行列」が８月29日、一泉同窓会会員ら約60人を含む380人が参加してにぎやかに行われた＝**写真**＝。

午前10時過ぎ、一中の本多町校舎跡地・金沢歌劇座前で出発式が行われ、山下一夫校長（泉丘19期）が「一中の伝統を泉丘に引き継いで整然と歩こう」とあいさつ、「頑張ろう」を三唱した。行列は広坂ー香林坊ー片町ー野町広小路ー市営グラウンドから母校へと4.5キロのコースを１時間半かけて歩き、「一中・泉丘ここにあり」を県民、市民にアピールした。

今年の最高齢参加者は一中43期の中川松雄さんで90歳。長男で泉丘18期の恒雄さんの助けを借りながらも時折降る小雨の中を完歩、現役生の拍手を受けた。

グラウンドでの到着式では蚊谷八郎一泉同窓会会長（泉丘14期）が「私は毎年、行列に参加して現役生からほとばしるエネルギーを頂いている。今年もありがとう」と後輩たちにエールを送った。

記念講演会には約40人参加

記念事業の第２弾「記念講演会」は、翌30日午前９時半から母校の啓泉講堂で行われ、同窓会員約40人が生徒たちと共に聴講した。

講師の松井孝典東大大学院教授は「宇宙から見た人類と文明」と題して講演、自然圏だけの地球上に人間が誕生、人間圏を構成するようになった地球の駆動力は10万倍にもなっている。地球環境問題もそうした観点から改善策を考える必要があると訴えた。

夢を持って挑戦せよ！

社会人と語る会で６先輩

泉谷満寿裕さん

野﨑晋一さん

神谷直浩さん

西村　将さん

原　葉子さん

林　桜子さん

石尾和彦教諭

各界で活躍する泉丘高校出身の先輩から経験談を聞き、今後の進路や生き方の参考にする平成20年度「社会人と語る会」が11月６日、２年生を対象に啓泉講堂で開かれた。

「語る会」は平成13年度から始まり、翌14年度からパネルディスカッション形式で続けられている。

今年度のパネリストとして招かれたのは珠洲市長の泉谷満寿裕さん（35期）、金沢医療センター歯科医師の野﨑晋一さん（同）、島津製作所航空機器事業部主任技師の神谷直浩さん（36期）、石川県総務部秘書課係長の西村将さん（41期）、中日新聞本社総務部の原葉子さん（42期）、菅井法律事務所・弁護士の林桜子さん（46期）の６人。コーディネーターは石尾和彦教諭（38期）が務めた。

最初に６人が自己紹介を兼ねて仕事の内容について話し、高校時代に自分の将来をどのように考えていたか、２年生の今は何をしたらよいかを示した。

地方自治体のトップとして初めて出席した泉谷珠洲市長は、「選挙で選ばれなければ就けない職業なので、あまり参考に成らないかも知れない」としながらも、地域づくり・地域興こしに目を向け、政治の世界を目指す人も出て欲しいと話した。全体的には夢をあきらめず、その実現のために常にチャレンジ精神を持ち続けること、そして高校時代に限らず大学時代でも、社会人になってからもその時その時に自分の力を出し惜しみせず、全力を出し切ることが大切であり、泉丘の生徒ならやれば出来る人たちばかりであるーと訴えた。

平成20年度一泉文庫寄贈・購入本

書　　名	著　　者	購入・寄贈者
釈　迢空ノート	折口信夫の養子・藤井春洋(一中32期)	購入
アムール河畔の英霊に捧ぐ（戦史）	戦史刊行会	購入
五帖のお文	西山邦彦（一中54期）	寄贈・横野浩（一中54期）
愚禿釈の鸞	同上	購入
親鸞思想の源流	同上	購入
道元と親鸞	同上	購入
親鸞教学の先覚者たち	同上	購入　清沢万之・曽我量深・金子大栄・蓬茨祖運・河上肇・西田幾多郎・三木清
ふるさと写真館	北國新聞社	購入
石川県人名事典現代編⑪	石川出版	購入
ZAITEN　７月号	財界展望社	寄贈・下川興（泉丘12期）
歌集　真弓坂	高橋協子（泉丘８期）	寄贈・高橋協子（泉丘８期）
泉寿会卒業50周年記念誌	泉丘10期同窓会	寄贈・泉丘10期同窓会
命令一下出で発つは	松浪清著・光人社	購入
私はラバウルの撃墜王だった	本田稔著・光人社	購入
地域社会の歴史と人物	加能地域史研究会	購入
CCLONE SHOGO	滝内こづも（泉丘56期）	購入
エッセイ集　も一つ金沢	斉田直行（一中55期）	寄贈・斉田直行（一中55期）
医事法の構想	金川琢雄（泉丘７期）	寄贈・金川琢雄（泉丘７期）
日本古代の史料と制度	「加賀国の交通路」山本和幸（泉丘46期）	寄贈・山本和幸（泉丘46期）
歴史研究42	「古代能登国の駅路」山本和幸（泉丘46期）	寄贈・同上
石川の建築家31人の家づくり	日本建築家協会北陸支部石川建築家会議	寄贈・西川英治（泉丘23期）
北陸の建築家たち	日本建築家協会北陸支部	購入、寄贈・松本大（泉丘33期）
回想・金沢高等師範學校附属校	森下恭子	寄贈・森下恭子
「朱木」東京版４号	金沢一中54期・朱木会東京支部	寄贈
硫黄島の戦い	新人物往来社・別冊歴史読本	寄贈・正村健三（泉丘４期）
硫黄島	武市銀治郎	寄贈・同上

活躍する後輩たち

「いずみの原」に最高賞　全国高校新聞コン

第38回全国高校新聞コンクールで、泉丘高校の学校新聞「いずみの原」が最高賞の文部科学大臣奨励賞を受賞した。表彰式は平成21年３月６日、東京・築地の朝日新聞東京本社で行われた。

今回、最高賞に選ばれたのは20年７月発行の第238号で、タブロイド版14ページ。発行部数は約5600部。１面と終面はカラー印刷。１面のトップ記事は、２年生の韓国への修学旅行の思い出。他に校内陸上大会や各学年の遠足の様子を、生き生きした写真を入れて紹介している。中面では「勉強の仕方や恋愛に対する意識調査」、「学校の食堂や購買の裏話」、昨年６月の秋葉原・無差別殺傷事件を受けての「ネット犯罪への対応を考える」など、硬軟両方の企画を織り込んでいる。

審査員から「見出しもうまく、表やグラフも効果的。紙面全体に気品とバランスが感じられる」と高い評価を受けた。

高校相撲　伝統守り連続出場92回

平成20年５月24日、金沢市の卯辰山相撲場で開かれた第92回高校相撲金沢大会に泉丘が出場、第１回大会からの連続出場の伝統を守った。泉丘には相撲部がないが、選手になったのはハンドボール部の森山諄己君（３年)、柔道部の山路昌史君（同)、武井嘉治君（１年)、中村嘉孝君（同）の４人。大将の森山君が２勝と健闘したが、決勝トーナメント進出はならなかった。

東大10人、京大に14人合格(前期)

３月10日、東大と京大の前期入試合格者が発表された。泉丘からは東大に10人（現役７人)、京大に14人（同10人）が合格した。

前年に比べ東大は２人、京大は１人減となったが、ライバル校の金大附属より東大で３人、京大で11人多く、県内では断然トップ。

今年の受験生は医師不足が叫ばれる世相を映し出し、例年以上に医学部への進学を希望する生徒が多かった。この日までの泉丘の国立大医学部合格者は前年の倍の16人。うち金大医学部には９人が合格した。

竜王戦県大会、宮下君がＶ２

高校生の将棋日本一を決める第21回全国高校将棋竜王戦の石川県大会が６月８日、金沢市の金大附属高校で行われ、昨年の県大会を制した泉丘高２年の宮下倖成君＝**写真**＝が連覇した。

宮下君は８月26日、福岡市で開かれた全国大会に石川県代表として出場、予選リーグを通過したが、決勝トーナメントの２回戦で惜しくも敗退した。また９月22日、白山市の市民公房うるわしで開かれたアマ王将北陸大会では、３段の宮下君が決勝で松本市の長沢忠雄５段（38歳）に敗れ、準優勝だった。

県高文連の英語劇､泉丘が１位

石川県高校文化連盟英語部の第30回ドラマフェスティバルが11月14日、金沢市の県女性センターで12校の英語部（ESS）が参加して開かれた。

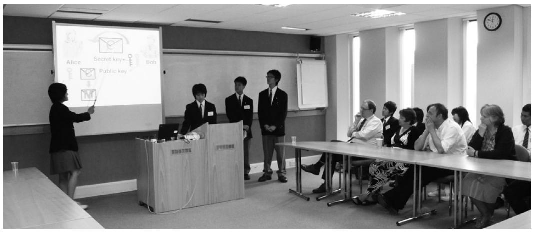
泉丘は、百年を迎えた日本人のブラジル移民の苦難を題材にしたオリジナル作品「ヘリテージ･オブ･ホープ」を発表して１位に輝いた。

泉丘、２つの合唱コンで金賞

第50回石川県合唱コンクールが８月17日、能美市の根上総合文化会館タントで開かれ、高校の部Ａで泉丘は金賞に選ばれた。第61回中部合唱コンクールの出場権を得た泉丘は、９月27日に富山県魚津市での同コンクールに出て、ここでも金賞を獲得した。

研究成果、英の大学で発表

泉丘高理数科の１、２年生16人が引率の地野信介教諭と共に８月２日から８日間、英国のマンチェスター大学を訪れ、教授や学生と交流を深めた。現地ではコンピューターサイエンスの実習を体験し、生徒代表４人が英語での研究発表にも挑戦した＝**写真**＝。



発表したのは中村匠汰君、出戸康貴君と奥田葉子さん、三井文乃さんの４人（いずれも２年）で、テーマはインターネット上のデータが盗まれないようにするための「RSA暗号」。当日は暗号の仕組みなどをパワーポイントを使いながら、英語で約45分間説明した。

〈編集後記〉

平成20年度も泉丘高校から353人、通信制過程から145人が卒業して一泉同窓会の仲間入りをした。彼らが桜章校の名にふさわしい桜満開の泉丘に入学したのは、３年前の４月。この年・平成18年の３月に、約80本ある校庭の桜の樹齢を心配した水泳部OBの泉泳会と、泉丘８期が12本の苗木を植樹した。

中でも８期が植えた５本の若木は、京都・醍醐寺のシダレザクラ。住友林業がクローン化に成功した「今様サクラ」で、同期生の紹介で寄贈を受けた。３年目の春を迎えて花咲けば、桜の泉丘にまた一つ話題が増える。

今年こそ「サクラサク」の吉報を、同窓会のホームページでお知らせしたい…。（N）

「一泉」編集室
正村健三(泉丘４期)　中山一郎(同10期)
浅香以都子(同10期)　小林弘子(同12期)
題字・高川義一（一中53期・泉丘２期）